

「教員免許状更新講習」

1. 参加者

	募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
シーカヤック	24名	21名	21名	21名
スノーケリング	24名	13名	13名	13名

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・体験活動の意義や効果を理解するとともに、実際の自然体験活動を通じて安全に配慮した指導法を体得する。国立若狭湾青少年自然の家 の 立地・環境を生かした特徴的な体験活動を通しての講習を実施する。

◆期日・期間

2017年10月14日（土）～ 10月15日（日）

◆主催 国立大学法人福井大学

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立若狭湾青少年自然の家

◆参加者分析

- ・シーカヤックとスノーケリングの両方を受講された方が11名おられた。受講者の中には、昨年度受講された方から勧められて受講された方がおられた。今回シーカヤックやスノーケリングに初挑戦という方もいたが、特に問題なく活動を進めることができた。

◆企画のポイント ◇プログラム

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
10月14日（土）		受付	開講式	【講義】「青少年期における自然体験活動の現代的意義1」 ― 水難防止学習を視点に ― グループごとに意見・実践 経験の交流 岐阜聖徳学園大学 教授 稲垣良介 奈良佐保短期大学 講師 杉山晋平	昼食・休憩	実習 「シーカヤック体験と学習指導に生かす体験活動1」 若狭湾 企画指導専門職	評価試験	閉講式 解散			
10月15日（日）		受付	開講式	【講義】「青少年期における自然体験活動の現代的意義2」 ―若者自立支援実践から捉え直す― グループごとに意見・実践 経験の交流 岐阜聖徳学園大学 教授 稲垣良介 奈良佐保短期大学 講師 杉山晋平 福井大学 准教授 岸俊行	昼食・休憩	実習 「スノーケリング体験と学習指導に生かす体験活動2」 若狭湾 企画指導専門職	評価試験	閉講式 解散			

【指導者養成研修事業】

◇講師	岐阜聖徳学園大学	教授	稲垣 良介 氏
	奈良佐保短期大学	講師	杉山 晋平 氏
	福井大学	准教授	岸 俊行 氏
	国立若狭湾青少年自然の家	主任企画指導専門職	今井 清継

◆運営のポイント

- ・シーカヤックやスノーケリング体験の中で、学級指導や学級経営につながる場面を取り上げて紹介したり考えてもらったりすることで、日々の学習活動の中にもそういった場面が多くあることに気づき、今後の学級経営や学習指導につながっていくように活動を進めた。
- ・体験活動では講義の中で取り上げられた活動の中に潜む危険にも触れ、活動そのものが安全に展開されることの重要性を伝えた。講義で取り上げられた内容を具体的に見える形で伝えることでより理解が深まると考えた。
- ・各学校での自然体験活動での運営者となることから、運営面での配慮となる内容を説明に入れた。

◆安全管理のポイント

- ・十月の中旬に実施されたので参加者の体調面に配慮することを最優先し、天候に応じて実習時間や内容を臨機応変に対応する。
- ・活動場所や道具について、安全に運用できるように点検をしておく。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	83%	17%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	87%	13%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	78%	22%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- ・普段体験できないことを気軽に組み合わせてよかった。
- ・シーカヤックをやったことがなかったので、貴重な体験ができた。
- ・時期に合わせてのプログラムを考えてほしい。

4. 成果と課題

(1) 成果

- 全体的に体験活動の時間が多く設定されており、自然の中でゆったりと満足のいく体験活動となった。じっくりと考えさせられる部分があり、安全面など学んだことを学校での自然体験活動に活かしていきたいと思った。
- 福井大学として、体験活動を取り入れたこのプログラムは特徴的であり、全体的に更新講習に参加者が減少している中で、応募の多かった講習となった。

(2) 課題

- 参加者からもこの時期の開催について感想が記入されていたが、海の活動をするにはかなり厳しい。一日目のシーカヤックは天候にめぐまれたが、二日目のスノーケリングは、水温が低いのに加え、透明度もあまりなく条件に恵まれない自然体験となった。次年度は、一週間早める方向である。
- 運営にかかることは福井大学が準備してくることが多いので、所の負担は少なく、他の事業が重なっていても無理はないと考える。